



1



2



3



4



5



- 1 6月1日。名産「支笏湖チップ(シメマス)」漁が解禁されました。初日から大漁で体長20〜25cmの4年魚が多い状況。昨年同様、今年の釣果も期待できそうです。銀色の輝きに照らされて釣り人も明るい笑顔です。
- 2 6月2日。国内外から総勢9660人のランナーが新緑の林間コースを疾走した「千歳JAL国際マラソン」。給水などで大会を支えるボランティアの数は1536人。総勢1万1千人の笑顔が清々しい青葉公園に活況を添えました。
- 3 6月14日。市消防職員と団員が日ごろの訓練成果などを披露する「訓練市長査閲」。写真はビル清掃作業員の救助を想定したもので、地上16mの高さでの訓練に緊張感が走ります。
- 4 6月15日。北ガス文化ホールで行われた第1特科団による「ユーカラコンサート」。今年も音楽隊による華麗なクラシックや歌謡曲の演奏のほか、勇舞中吹奏楽部との共演や隊員の歌唱などで、会場を盛り上げました。
- 5 6月22日、23日。市のひとまちづくり助成事業による《市民ミュージカル》のオーディションに22人の方が参加しました。森総監督(写真)の手ほどきで演技を披露する皆さん。来年1月予定の上演が待ち遠しいですね。



6月23日/赤石 恵一さん宅(末広)で撮影

今月の表紙

ちとせ環境と緑の財団が案内する《ちとせオープンガーデン》が見ごろです。花を見ると優しい気持ちになると思いますが、バラに対する庭主の優しさに、一輪一輪が応えているかのように思えてならない情景です。

■ 一般の住宅地で120品種のバラを育てる赤石さんは「道内で見事なバラを咲かせる方と交流する中で学んだことが多い。皆さん熱意が違つ」と話す。知識や技術が違つても熱意を注ぐ方向が一緒なら火山灰の土地にも美しい景観は広がるのだ。花のネットワークを紡ぐ市内オープンガーデンの取組は2年目。唯々素晴らしいと思う。毎年、ランナーとして参加している「千歳JAL国際マラソン」ですが、今年は取材。給水ポイントで紙コップをひたすら拾う方がいたので、思わずシャッターをきりました。聞くと、第一回大会からずっと沿道でランナーをサポートしているとのこと。来年は記念すべき40回大会。感謝の気持ちを忘れずに走りたいと思います。